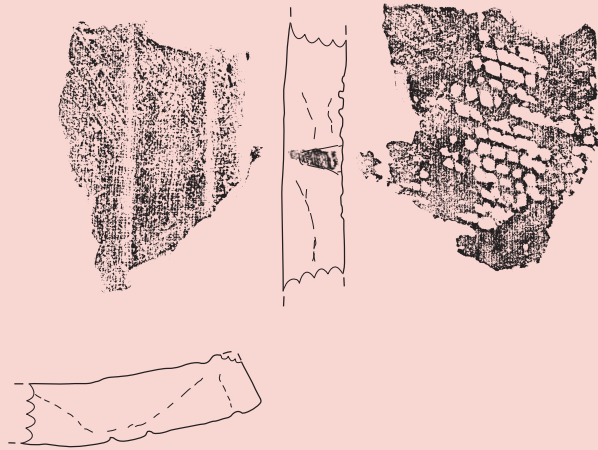


下入野西古墳群

(第 3 地点第 3 次)

—障害者支援施設増床工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2019

水戸市教育委員会

下入野西古墳群

(第 3 地点第 3 次)

—障害者支援施設増床工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2019

水戸市教育委員会

ごあいさつ

水戸市は那珂川の流域に位置し、八溝山系の山並みと那珂川・千波湖の豊かな自然に囲まれています。私たちの祖先もこの豊かな自然のもと生活を営んできました。

下入野西古墳群は、市街地の南東、東茨城台地の東端に位置しています。この一帯では、下畑遺跡や雁沢遺跡、森戸古墳群、諏訪前遺跡、久保山館など、原始から中世に至るまで多くの遺跡が分布しており、連綿とした人々の生活の営みを垣間見ることができます。

歴史的文化遺産である埋蔵文化財は、その性格上、一度壊されてしまうと二度と原状に復することができないため、私たちが大切に保存しながら後世に伝えなければならない貴重な財産です。

一方、下入野西古墳群では、近年の公共事業等の開発もあって、周辺に位置する遺跡の様相が大きく変わりつつあり、本市教育委員会では、文化財保護法並びに関係法令に基づき遺跡の保護保存に努めているところです。

この度の発掘調査は、現在計画されております障害者福利厚生施設の増床工事に際して記録保存を前提とした調査が行われました。調査では奈良時代の瓦片が発見され、水戸市渡里に所在する国指定史跡台渡里官衙遺跡群台渡里廃寺跡に葺かれていたと思われる瓦と同じ瓦片である可能性があります。本遺跡の周辺に台渡里廃寺の屋瓦を生産した瓦窯跡が存在している可能性が十分に示唆される場所となり、大変貴重な成果となりました。

ここに刊行の運びとなりました本書を契機として、かけがえのない貴重な文化財に対する愛着を深めていただくとともに、学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたりまして多大なる御理解と御協力を賜りました関係各位に、心から感謝を申し上げます。

平成31年3月

水戸市教育委員会
教育長 本多 清峰

目 次

ごあいさつ

目次 例言 凡例

第1章 調査に至る経緯と 調査の経過…………… 1	第3章 検出された遺構と遺物…………… 9
第1節 調査に至る経緯 について…………… 1	第1節 古代…………… 9
第2節 調査の方法と経過…………… 2	(1) 概要…………… 9
第3節 基本土層…………… 3	(2) 性格不明遺構…………… 10
第2章 遺跡の周辺環境…………… 5	(3) 小穴…………… 11
第1節 地理的環境…………… 5	(4) 試掘調査出土遺物…………… 16
第2節 歴史的環境…………… 5	第4章 総括…………… 17
第3節 下入野西古墳群における 既往の調査について…………… 7	第1節 土地利用の変遷の概略…………… 17
	引用・参考文献
	写真図版
	報告書抄録・奥付

挿図・表目次

第1図 調査地点位置図	第8図 SX-2土層断面図(2)
第2図 基本土層図	第9図 小穴群, SX-1出土遺物実測図
第3図 周辺遺跡位置図	第10図 試掘調査出土遺物実測図
第4図 既往の調査地点	第1表 周辺遺跡一覧
第5図 調査区全体図	第2表 下入野西古墳群における既往の 調査地点一覧
第6図 遺構平面図	第3表 小穴計測表
第7図 SX-1~3土層断面図(1)	

写真図版目次

写真図版1 A. 遺構確認状況(北西から) B. 調査区全景(西から) C. SX-1完掘(南 西から) D. SX-1土層A・A'(北東から) E. SX-1土層B・B'(南西 から) F. SX-1土層C・C'(北東から) G. SX-1・2交点土層D・D' (南から) H. SX-2完掘(南西から)
写真図版2 A. SX-2完掘(北から) B. SX-2完掘(南から) C. SX-2土層E・E' 南半(東から) D. SX-2土層E・E'北半(東から) E. SX-2土層F・ F'西半(北から) F. SX-2土層F・F'東半(北から) G. SX-2土層 G・G'(北西から) H. SX-2土層H・H'(北から)
写真図版3 A. SX-3完掘(北東から) B. SX-3土層I・I'(南西から) C. SX- 3土層J・J'(北東から) D. P-1完掘(南から) E. P-1土層(南か ら) F. P-2完掘(西から) G. P-3完掘(北東から) H. P-3土層 (東から) I. P-4完掘(西から) J. P-5完掘(南西から)

K. P-6完掘（西から） L. P-7完掘（北東から） M. P-8完掘（南東から） N. P-9完掘（北西から） O. P-10土層（東から） P. 基本土層（北西から） Q. 調査区脇石碑（南西から） R. SX-1出土遺物

例 言

- 1 本書は、社会福祉法人勇成会 障害者支援施設ありすの杜増床工事に伴う下入野西古墳群（第3地点第3次）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、水戸市教育委員会の指導のもと、事業主より委託を受けた株式会社日本窯業史研究所が行った。
- 3 調査の概要は、下記の通りである。

所在地 茨城県水戸市下入野町1924番2

調査面積 約106㎡

調査期間 平成30年7月9日 から 同年7月21日

調査主体者 株式会社日本窯業史研究所（代表取締役 菅間裕二）

調査指導 廣松滉一（水戸市教育委員会事務局教育部歴史文化財課埋蔵文化財センター文化財主事）

調査担当者 水野順敏（株式会社日本窯業史研究所 日本考古学協会々員）

調査参加者 柏 勝，塩野 進，柴田忠良，田村政子，平根幸子

- 4 本書は、水野，廣松が分担して執筆し，廣松の指導のもと水野が編集した。遺物・遺構図の整理，編集は菅間智子の協力を得た。
- 5 出土遺物及び記録類は，一括して水戸市埋蔵文化財センターにて保管している。
- 6 発掘調査から本書の刊行に至るまで，下記の諸機関よりご指導・ご協力を賜った。御芳名を記して深く謝意を表する。

社会福祉法人勇成会 障害者支援施設ありすの杜，茨城県教育庁総務企画部文化課，
㈱玄設計，東新建設㈱，(有)北関東広興，(株)地域文化財研究所 （敬称略・順不同）

凡 例

- 1 本書に記している座標値は，世界測地系を用いている。挿図のうち，平面図の方位記号は座標北を，土層断面図の水準線高の数値は，海拔標高をそれぞれ示す（単位：m）。
- 2 土層及び遺物の色調は『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 編・著 農林水産省農林水産技術会議事務局 監修 (財)日本色彩研究所 色票監修 2008年度版）に準拠する。
- 3 遺構平面・土層断面図の縮尺は1／60，遺物は1／2，1／3を基本とし，各図にスケールを明示した。遺物実測図の断面墨ベタは須恵器を示す。
- 4 遺構図及び土層説明における略称は以下の通りである。

SX：性格不明遺構，P：小穴，K：攪乱，L：ローム土，R：粒，B：ブロック

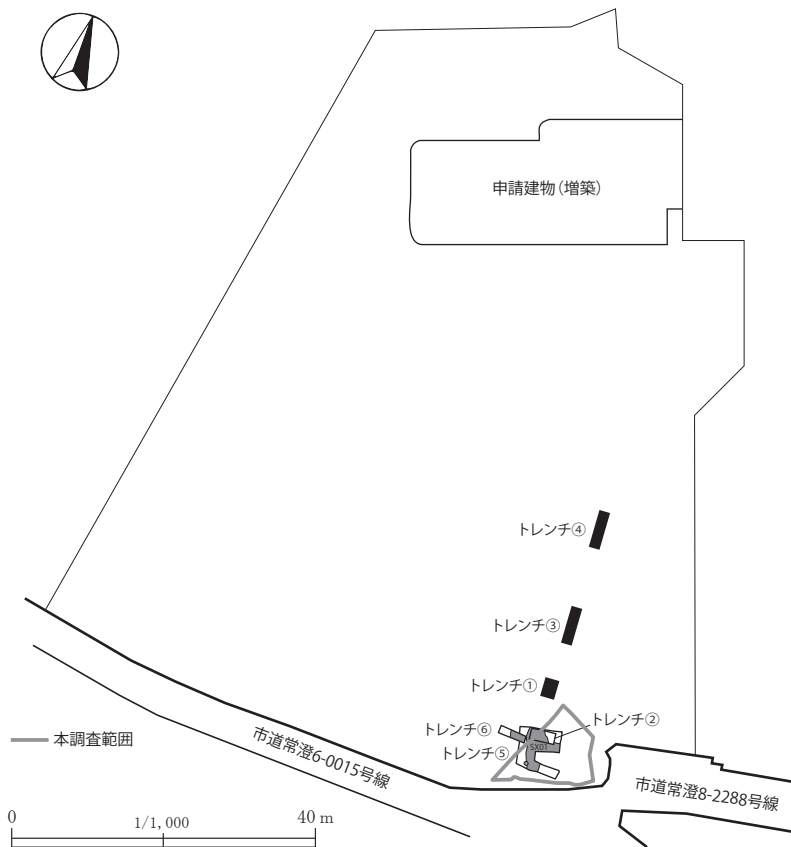
Tr：トレンチ，攪乱：，柱当り・硬化層：

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

第1節 調査に至る経緯について

平成30年1月10日付けで、障害者支援施設ありすの杜増床工事に伴い、株式会社 玄設計 代表取締役 川津 保（以下「事業者」という。）から水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）教育長あて、埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて（教埋第1590号）、並びに開発に係る埋蔵文化財試掘調査の実施について（教埋第1591号）の依頼があった。

今般の事業計画地である水戸市下入野町字水走1924番2は、一部が周知の埋蔵文化財包蔵地「下入野西古墳群（遺跡番号201-198）」の範囲内に該当していることから、市教委は事業者あて工事着手の60日前までに文化財保護法第93条に基づく届出が必要である旨回答した。その後、事業者から提出のあった事業計画に基づき、平成30年2月23日に試掘調査を実施したところ、抜根及び切土工事が予定されている範囲において、性格不明遺構及びピットを検出した。今回の事業計画と調査結果を重ね合わせたところ、確認された埋蔵文化財への工事による影響が懸念されたため、市教委は平成30年4月10日に、事業計画変更を視野に入れ、再度試掘調査を実施したところ、第1次調査で検出された性格不明遺構の広がりを確認した。



第1図 調査地点位置図

そこで、これらの埋蔵文化財について、市教委は埋蔵文化財の保存のあり方について事業者との協議を重ねた結果、抜根及び切土工事が実施される範囲は大幅に縮小されたものの、性格不明遺構の広がる範囲においては、工事による埋蔵文化財への影響は不可避であり、その現状保存が極めて困難であるとの結論に達した。そのため市教委は、事業者から提出のあった文化財保護法第93条第1項に基づく届出について、抜根及び切土工事の実施範囲についての次善の策として、記録保存を目的とした本発掘調査を実施すべき旨の意見書を付して、平成30年5月8日付け教埋第1824号にて、茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）教育長あて進達した。

平成30年5月17日付け文第436号にて県教委教育長から事業者に対し、上記範囲において工事着手前に本発掘調査の実施を要すること、調査の結果重要な遺構が確認された場合にはその保存について別途協議を要する等の旨、指示・勧告があった。

これを受けて事業者は、市教委及び株式会社日本窯業史研究所（以下「調査機関」という。）と発掘調査実施に係る協定書を締結した上で、調査機関と発掘調査業務委託契約を締結し、当該調査を下入野西古墳群第3地点第3次発掘調査として、平成30年7月9日から発掘調査を開始することとなった。（廣松）

第2節 調査の方法と経過

開発予定地は山林であったことから、径40～50cmの切株が8本程遺存していた。切株部分を除き、重機により表土を除去した。これと並行して人力による遺構確認作業を行った。二次にわたる試掘調査で想定された遺構は、逆T字型の性格不明遺構（SX-1）と若干の小穴である。調査の進捗に伴い性格不明遺構は3基、小穴類は計12基となった。小穴類は半截、不明遺構は長軸に直交もしくは平行するトレンチによって土層を観察・記録の後、完掘して写真撮影・実測を行った。

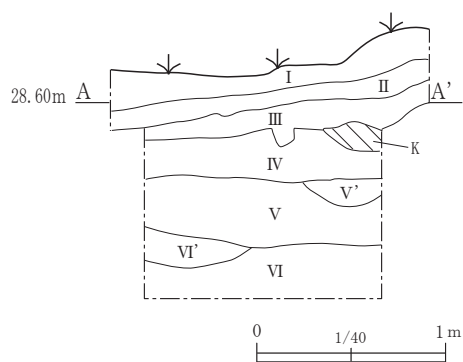
調査の区画は、公共座標（世界測地系）に基づき10m方眼を設定し、X軸をアラビア数字、Y軸をアルファベットで示した。南西隅=1Aの座標値は $X = 34590.00\text{ m}$ 、 $Y = 60900.00\text{ m}$ である。平面図、土層・断面図とも縮尺20分の1で作成した。平面図は調査区全体を網羅する形で作成し、計測にはレイアウトナビゲーターを使用し、手書きで方眼紙に作図した。土層図は計測・作図とも人手で行った。写真撮影は、デジタルカメラを使用し、撮影データの保存はRAW及びJPEG形式の2種類とした。撮影には三脚及び大型脚立を使用した。

平成30年7月7日に器材の搬入、草刈り、調査前写真の撮影、調査区位置出しを行う。同月9日より重機による表土除去、人力による遺構確認作業に着手する。12日、事業主・ありすの杜理事長、翌13日、水戸市埋蔵文化財センター職員の視察有り。作業の進捗に伴い、同月19日には全景写真の撮影を実施した。20日に市教委による終了確認を受ける。翌21日まで記録作業を継続し、23日に埋め戻し作業と器材の撤収、24日に仮設を撤去しすべての野外作業を終了した。

整理・報告書作成作業は、野外調査終了直後より着手し、平成31年3月まで断続的に行った。

第3節 基本土層

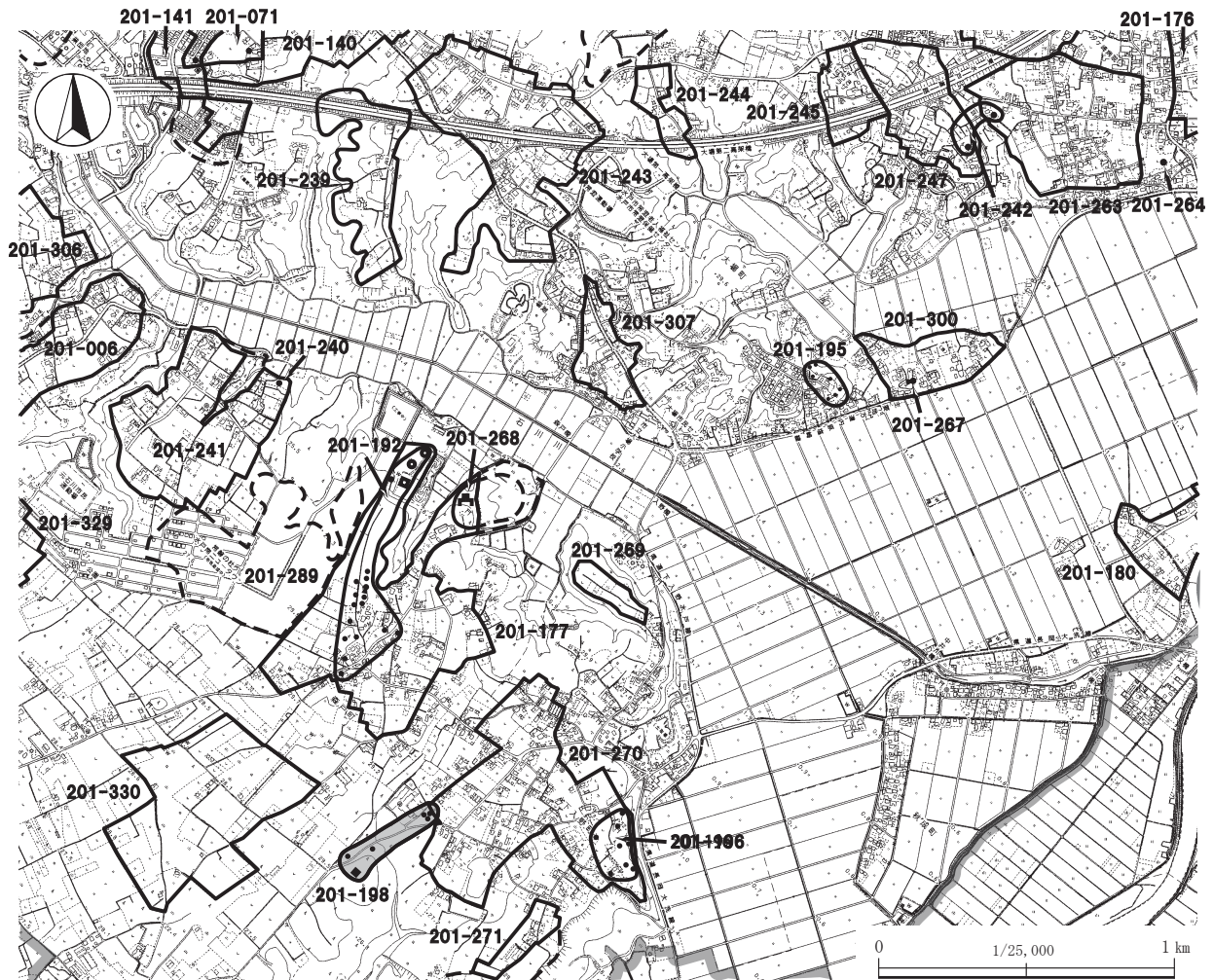
調査地は、吉田台地の南端部にあたり台地は小支谷によって樹枝状に開析され、起伏に富んだ地形である。今次調査区の南西、北西にも谷（沢）が深く嵌入している。また、現況は山林で表土は腐植土であったが、その直下には人為的な整地土と見られる黄褐色土があり、その下に旧表土層が遺存する所と確認されなかった所とがある。調査区南東部の土層を図示した（第2図）。（水野）



基本土層

- I. 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり弱い、表土腐植土
- II. 黄褐色土 (10YR5/6) 締まりあり、整地土（旧）
- III. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 締まりあり、旧表土
- IV. 黄褐色土 (10YR5/6) にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 粒・塊 (1～40 mm) 30%含む、締まりあり、ローム漸移層
- V. 明黄褐色土 (10YR6/8) 締まりあり、ソフトローム層
- V'. 第V層に第IV層が約30%含まれる、締まりややあり
- VI. 明黄褐色土 (10YR6/8) 締まり強い、ハードローム層
- VI'. 第VI層に第V層が約25%含まれる、締まりあり

第2図 基本土層図



第3図 周辺遺跡位置図

第1表 周辺遺跡一覧

遺跡番号	遺跡名	種類	遺物	備考
201-006	下畑遺跡	集落跡	縄文土器(中・後), 打製石斧, 石鏃, 石錘, 磨石, 凹石, 石棒, 石剣, 土器片鏟, 土師器(古後)	
201-141	雁沢遺跡	集落跡	縄文土器(中・後), 弥生土器(後), 土師器(古前), 須恵器(奈・平)	
201-176	大串遺跡	集落跡	縄文土器(前・後), 土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平), 布目瓦, 灰釉陶器	官衙遺跡
201-177	森戸遺跡	包蔵地		
201-192	森戸古墳群	古墳群	尖頭器(旧), 土師器(古), 円筒埴輪, 形象埴輪, 勾玉	後円1, 方0(1), 円
201-195	潤沼台古墳群	古墳群		円7?
201-196	下入野古墳群	古墳群	円筒埴輪, 大刀, 刀子	円8
201-198	下入野西古墳群	古墳群		円6
201-239	中ノ割遺跡	集落跡	縄文土器(早~後), 石槍, 石斧, 磨石, 土器片鏟, 土師器, 須恵器(奈・平)	
201-240	小仲根権現古墳	古墳		円1
201-241	小仲根遺跡	集落跡	縄文土器(中), 磨製石斧, 土師器, 須恵器(平)	
201-268	久保山館跡	城館跡		
201-269	西ノ崎遺跡	集落跡	土師器, 須恵器(古・奈・平)	
201-270	下入野富士山遺跡	集落跡	土師器(古), 円筒埴輪	
201-271	散野遺跡	集落跡	縄文土器(中), 土師器, 須恵器(奈・平)	
201-289	元石川大谷原遺跡	集落跡	剥片(旧), 縄文土器(前・中・後・晩), 土器片鏟, 土師器, 須恵器, 灰釉陶器(奈・平)	湮滅
201-306	寺後遺跡	包蔵地	縄文土器, 土師器	
201-307	山崎遺跡	包蔵地		
201-330	新分付遺跡	包蔵地	縄文土器, 土師器	

第2章 遺跡の周辺環境

第1節 地理的環境

茨城県は関東平野の北東部に位置し、水戸市はその東辺中程に所在する。市域の北部を流れる那珂川は、栃木県的那須連山を水源とし、八溝山地の西縁を南に流れた後、那珂台地と東茨城台地との間を南東流して太平洋へと注ぐ。この為、那珂川は内陸部と沿岸部を結ぶ文化・経済伝播経路として旧くから利用されて来た。那珂川の流路には沖積低地が形成され、これに沿うように東茨城台地が東に向かって突出する。この台地の水戸市域に相当する部は水戸台地と呼称されるが、水戸台地は支谷によって四つに細分され、北西より上市台地、見和台地、千波台地、吉田台地などと呼ばれる。

遺跡は、吉田台地の南端部、涸沼川西岸の標高28m程の台地上に立地する。涸沼川に面する台縁部より約500m奥まった台地上に位置し、現況は杉を主体とする山林であった。

第2節 歴史的環境

本遺跡の立地する吉田台地上には、旧石器時代～中・近世にわたる各種の遺跡が多数所する（第3図、第1表）が、ここでは紙数の関係から古墳時代～奈良・平安時代について主に紹介する。

古墳時代 調査点の北方約500mの森戸古墳群は、前方後円墳1、方墳1、円墳17基からなる後期の古墳群であるが、発掘資料では無いもののかつて二重口縁底部穿孔壺2個の出土が報告されている（郡司 1973）。さらに谷を隔てた北東方約2.2kmの大場天神山古墳からはかつて船載鏡の出土が報告されている（岸本 1992）など、前期における古墳の存在が知られる。中期の古墳も近隣には見られないが、東京国立博物館蔵品に『東茨城郡常澄村稻荷神社境内出土資料』がある。五獣鏡・銅環・直刀・鉄鏃・壺鍔・兵庫鎖・素環鏡板付轡などの出土があり、中期後半～後期にかけての副葬品と考えられている（東京国立博物館 1980）。後期に至ると本古墳群はじめ前述の森戸古墳群や東方約600mの下入野古墳群など近隣でも古墳の築造が急増する。森戸古墳群では前方後円墳の1号墳から円筒埴輪・楕形埴輪・家形埴輪・馬形埴輪などが採集され、6世紀代の築造と推定されている（吉川 1991）。北東方約3.9kmの北屋敷古墳群では、発掘調査により2号墳から市指定文化財の武人埴輪をはじめ多くの人物埴輪が出土し（井上・千葉 1995）、1号墳は埴輪を持たず、礫床切石積みの横穴式石室で、直刀・刀子・鉄鏃などが出土している（梶山 1993）。

該期の集落跡に目を向けると、前期の集落としては大串遺跡（井上 1994）、中期の集落は北屋敷遺跡（梶山 1993）、後期では梶内遺跡（檜村 1995）、小仲根遺跡（水戸市教育委員会編 2002）、小原遺跡（水戸市教育委員会編 2015・2016）などがある。また、本遺跡の北東に広範囲に広がる下入野富士山遺跡は下入野古墳群と重複することもあり、古墳時代の土師器類の他に円筒埴輪片も採集されている。

奈良・平安時代 この辺は、当時常陸国那賀郡芳賀郷（里）に属していた。常陸国は東海道に属し、11郡を管する大国である。このうち那賀郡は22郷を管する大郡で、その政治・経済・文化の中心である郡家（衙）などは市内渡里町の国指定史跡台渡里官衙遺跡群に比定されている。（水戸市教育委員会編 2012）。正倉院の他に郡名寺院などが確認され、付近には河内駅家に比定される田谷遺跡（廃寺）も所在する。

当該地区における該期の遺跡として注目されるものに、北東方約3.6kmの大串遺跡がある。同遺跡の第7地点においての発掘調査で、上幅4mの大型溝による区画内に整然と並ぶ3棟の礎石建物跡が確認された（水戸市教育委員会編 2007）。さらに、大型の溝の外側に接する形で束柱をもつ6間×3間の大型掘立柱建物跡も確認された。また、溝内や柱抜き取り痕などから炭化材に混じって炭化米が出土している。遺跡の性格としては、郡正倉院の台渡里官衙遺跡群長者山地区に対する「郡正倉別院」、あるいは常陸国風土記に記載されている「平津駅家」と見る向きもある。この大串遺跡の西に隣接する梶内遺跡は、7～10世紀にわたる集落跡で、各種墨書土器や9点もの円面硯が出土し、遺跡の性格が注目される（櫻村 1995）。さらに、この北西方に所在する東前原遺跡では、大規模な方形に廻る区画溝が確認され、大串遺跡と同様に官衙的性格を持つ可能性がある。そして、東前原遺跡の南に隣接する小原遺跡は6～9世紀にかけて営まれた集落跡で、「官」と銘記された墨書土器の存在から、大串遺跡に対する梶内遺跡のような性格を有するものと推察されるに至った（水戸市教育委員会編 2015・2016）。

なお、那賀郡の正倉院の台渡里官衙遺跡群長者山地区では複数の瓦葺倉庫の存在が推定され、河内駅家に比定される田谷遺跡においても瓦葺建物跡の存在が想定されている。また、前述の大串遺跡第7地点からも瓦類の出土が報告されている。しかし、ここでは一棟全体を葺いたと判断し得る程の出土は無かったものの、近隣に瓦が集中して出土する場所があると言う（川口 2010）。

那賀郡内の官衙・寺院に供給された瓦の生産地としては、ひたちなか市の原の寺瓦窯跡（勝田市教育委員会編 1980・1981）、奥山瓦窯跡（鴨志田 1989）が主体で、市内木葉下窯跡群や山田窯跡群（常陸古代窯業史研究会 1998）においても瓦が焼かれていたと考えられる。なお、本遺跡の所在する下入野地区では、詳細な出土位置は不明であるものの、台渡里廃寺跡と同種の鍔瓦が出土しており（黒澤 1994）、南東方約500mの散野遺跡でも竪穴建物跡から瓦片が多数出土している（水戸市教育委員会編 2016）。本遺跡においても、試掘調査時に女瓦片1点が出土し、本調査の成果が期待されたものの、今回はこれだけに止まった。このような状況から、下入野地区に瓦の生産遺跡が存在する可能性を指摘する向きもある（黒澤前掲）。

（水野）

第3節 下入野西古墳群における既往の調査について

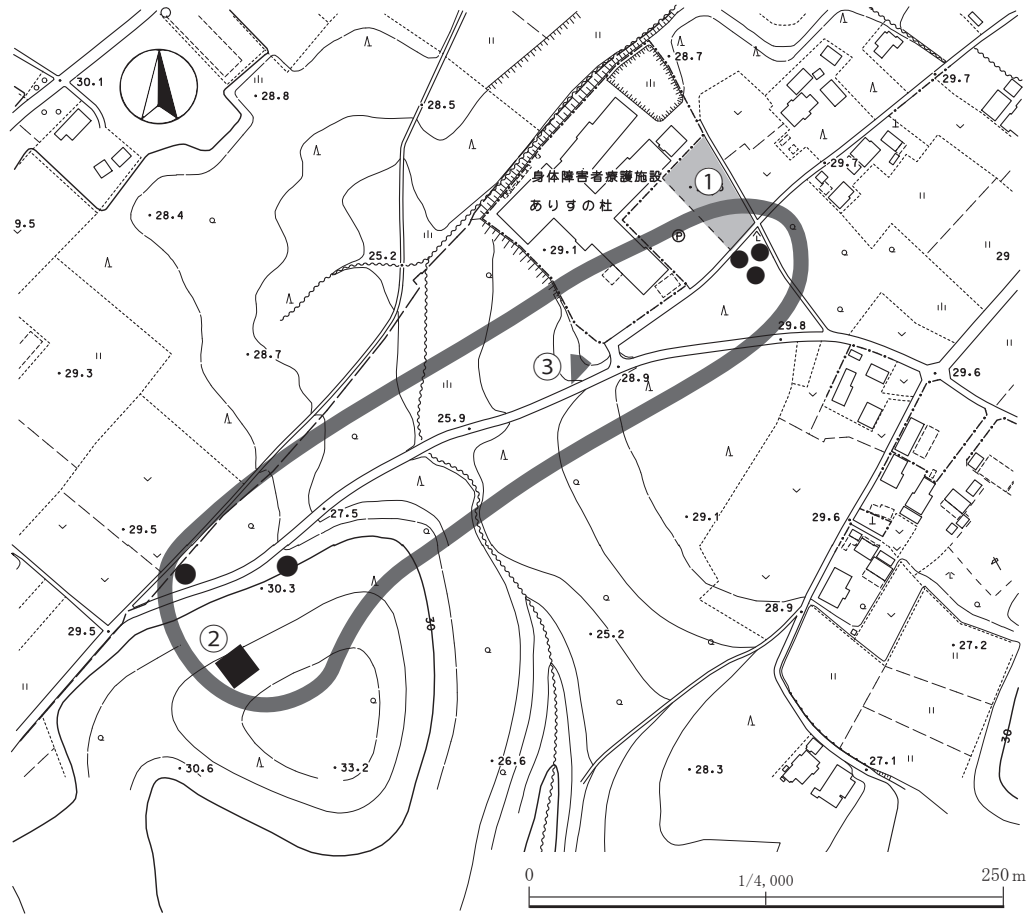
下入野西古墳群では現在まで、今回の調査地点（第3地点）を除くと2地点で発掘調査が実施されており、いずれも開発に係る試掘調査である。

平成22年2月24日に市教委により調査が実施された第1地点は、今回発掘調査を実施したありすの杜敷地の北部にあたり、第3地点の北東約100mに位置する。設定した6箇所の試掘トレンチの面積は合計44.6㎡である。いずれのトレンチからも遺構及び遺物は検出されず、うち2箇所のトレンチでは表土層直下から鹿沼軽石層が検出された。本地点の南東方の森林内には古墳群の北東端を担う円墳3基が分布するが、当該調査により、古墳群北部は大規模な土地改変を被り遺構確認面の残存状況が比較的悪いこと、及び本地点周辺は古墳群内の空閑地として機能していたことが判明した。

平成27年4月14日に同じく市教委により調査が実施された第2地点は、第3地点の南西約250mの森林内に位置し、古墳群の南西端を担う方墳の直近に該当する。設定した1箇所の試掘トレンチの面積は15.45㎡であり、当該トレンチの東端部で、当該墳丘の周溝と考えられる溝状遺構が検出された。当該調査では、掘削に際して墳丘の保護に配慮したこと、及びトレンチ幅が1.5m程度であったことから、周溝の内縁を検出するには至らず、周溝及び墳丘の形態は詳らかになっていない。（廣松）

第2表 下入野西古墳群における既往の調査地点一覧

地点数	遺跡名	調査箇所	調査年月日	調査原因	調査種別	遺構	遺物	備考
1	1	下入野町1923番3・番5	平成22年2月24日	介護施設建設	試掘	-	-	
2	1	下入野町	平成27年4月14日	ゴミ処理場建設	試掘	○	-	墳丘盛土, 周溝検出
3	1	下入野町1924番2	平成30年2月23日	社会福祉施設建設	試掘	○	○	溝跡検出
	2	下入野町1924番2	平成30年4月10日	社会福祉施設建設	試掘	○	○	溝跡検出
	3	下入野町1924番2	平成30年7月9日～21日	社会福祉施設建設	本調査	○	○	本報告書



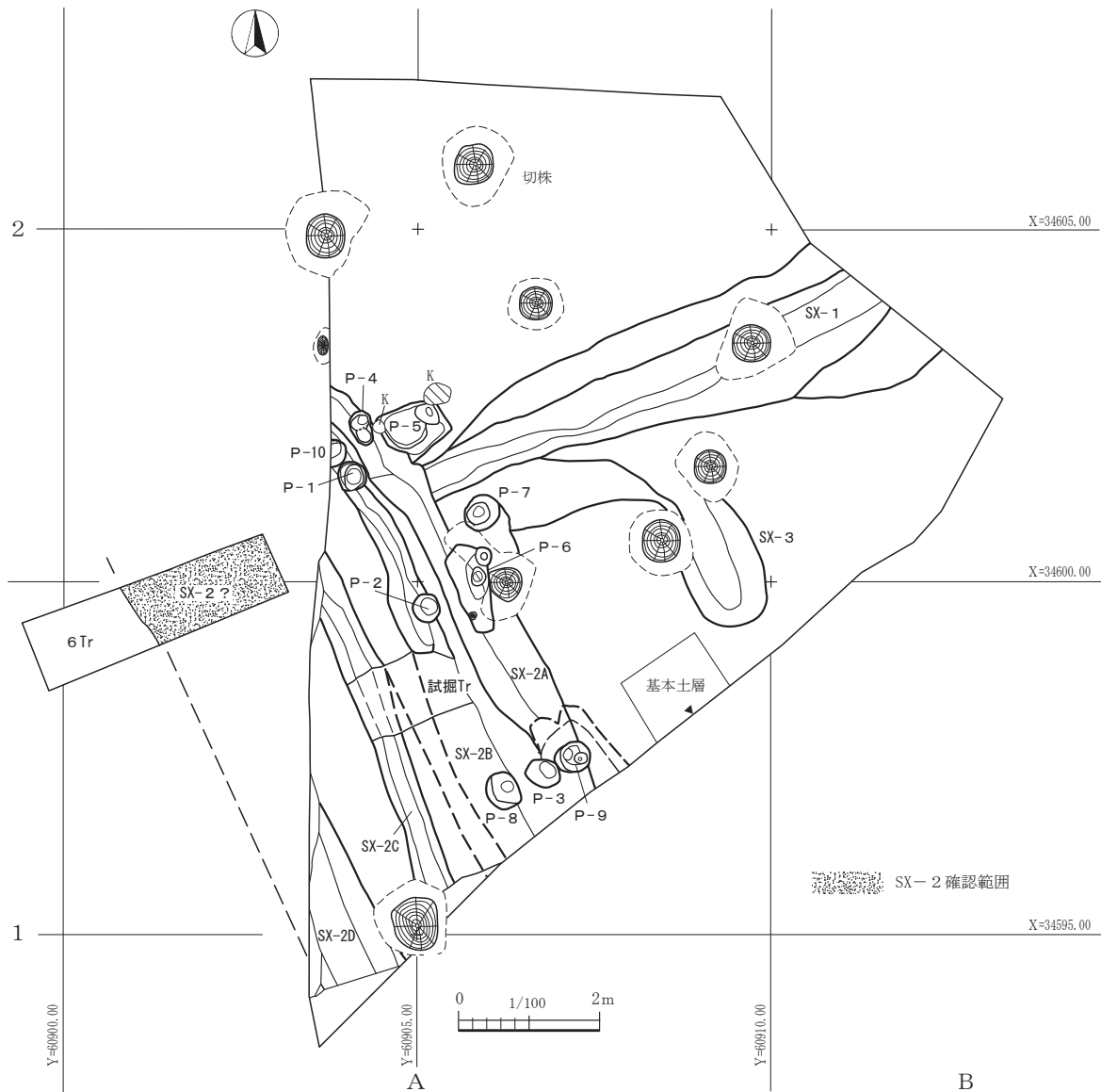
第4図 既往の調査地点

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 古代

(1) 概要

今次調査で確認された遺構は、性格不明遺構3基，小穴類12基である。本遺跡は古墳群として周知されてきたが，本年2・4月の2次にわたる試掘調査で，古墳の存在は否定された。しかし，切株の間隙を縫うように設けたトレンチ（Tr）で，T字形の溝状の性格不明遺構（SX-1）と小穴（P-1・2）が確認された。また，出土遺物も極めて少なく1次の1Trより女瓦片1点（第10図），2次の5Trより須恵器甕の体部片1点（第10図），本調査においても，SX-1の遺構確認面で須恵器坏の口辺部細片が1点出土したに過ぎ



第5図 調査区全体図

ない。したがって、遺構の性格に加えこれらの遺構の帰属時期も断定し難い状況である。しかしながら、僅か3点の遺物はいずれも古代の所産と判断され、各遺構の覆土も強いて異なる時期を想定すべき状態では無いと考えられた。よって今次調査による遺構群は古代の所産と想定し報告する。

(2) 性格不明遺構

3基の遺構としたが、本来の規模・形状が不明な上に調査範囲の制約もあり、詳細は判然としないのが現状である。

SX-1 (第5～7・9図, 写真図版1・3)

遺構 調査区中央部を北東・南西に延びる溝状の遺構で、北東は調査区外に延びるが南西端はSX-2Aと重複し、これに切られていた。現存長は7m、やや蛇行するが主軸方位は概ねN-66°-Eを示す。上幅2.0～2.5m、深さ40～46cm、壁は比較的急勾配で立ち上がった後直ぐに大きく外反する。底面は幅18～55cmと所により異なるが、標高27.93～27.97mと調査区内においてはほぼ平坦であった。

覆土は3～9層に分層され、中位の土層(第7図網掛け部分)が硬化していた。また、遺構確認面では、やや南東側に寄って硬化面が認められた。

したがって、当初の開削目的は判然としないものの、本跡は道路として長く利用されたものと考えられる。

遺物 今次調査で唯一の出土遺物で、須恵器坏の口辺部細片が1点出土した。遺構確認面での出土である。ロクロ整形、焼成：良好、胎土：細砂粒、岩片φ4mm、色調：灰白色(10YR7/1)。

SX-2 (第5～9図, 写真図版1・2)

遺構 調査区南西部に確認された。調査当初はSX-1と一連のものと思われたが、調査の進捗に伴い本跡のSX-2Aが埋没途中のSX-1の南端を切っていること(第7図D-D')が確認された。現存の北西・南東長約6.5mで、北西・南東とも調査区外に延びる。主軸方位は概ねN-26°-Wを示す。

なお、本跡はSX-1と異なり、北東・南西長約4.5mの幅にほぼ同一方向に延びる溝状遺構の集合体(SX-2A～2D)の状況を呈する。残念ながら本跡の調査範囲の大部分が試掘調査時の2・5Trと重なっており、土層観察によってSX-2A～2Dの先後関係の有無を追求することは叶わなかった。調査区西端で約10mにわたって土層を検討したが、やはり遺構の底面付近に至るTrの痕跡が広範囲に確認された。なお、本跡の場合も中位の覆土に硬化した部分が見られ、南西寄りのSX-2Dは溝状部分の底面にも硬化部分が認められた。また、SX-2A～2Cの底面は標高27.90～28.00m程であるがSX-2Dは27.60～27.70mと一段低い。

次に本跡の特徴として北東側に集中して小穴が認められた。規模・形状・深さがまちまちであるものの、北西部にP-1・4a・4b・5・10、中央部にP-2・6a・6b・7、南東部にP-3・8・9と大まかに3群と見ることが出来よう。各群の間隔は均一では無く、

また、全てには適合しないが、それぞれの群では南西側のものが深く、北東側が浅い傾向が見られる。なお、小穴の底面に柱当りを認めるものも多く、何らかの構造物の柱穴と推察される。北西及び南東方向への伸びは想定し得るものの、北東及び南西側への展開は調査範囲の制約もあり判然としないが、現時点では確認出来なかった。しかし、3群の小穴はあまり大きく移動せずに設けられていること、SX-2A～2Dとした溝状の施設にほぼ平行することなどから、類似の施設があまり位置を変えずに繰り返し構築されたと推考する。

なお、本跡の西側への広がり追求の為、埋め戻し作業の際に設けた6 Tr ではSX-2Dの南西辺と見られるものを確認し、それより1.2m先まで遺構は認められなかった。

遺物の出土は皆無である。なお、第1次試掘調査で女瓦片が出土した1 Tr は北西約4mの本跡の延長上に位置し、後世に上部が削平されたとはいえ本跡に帰属していた可能性は高い。

SX-3 (第5～7図, 写真図版3)

遺構 調査区北東部, SX-1の南東に接して確認された。切株と切株の間に位置し、根の処理中に確認したもので、両者の先後関係は明確にし難い。規模・形状は前記の状況から明確にし難いものの、長さ約2.0m, 幅1.1mの楕円形と推定される。深さ16～20cm, 壁はやや外傾し、底面はほぼ平坦であった。

覆土は4層に分層されるが、第1～3層は後世の掘り込みと考えられる。

遺物の出土は無かった。

(3) 小穴 (第5・6・9図, 第3表, 写真図版3)

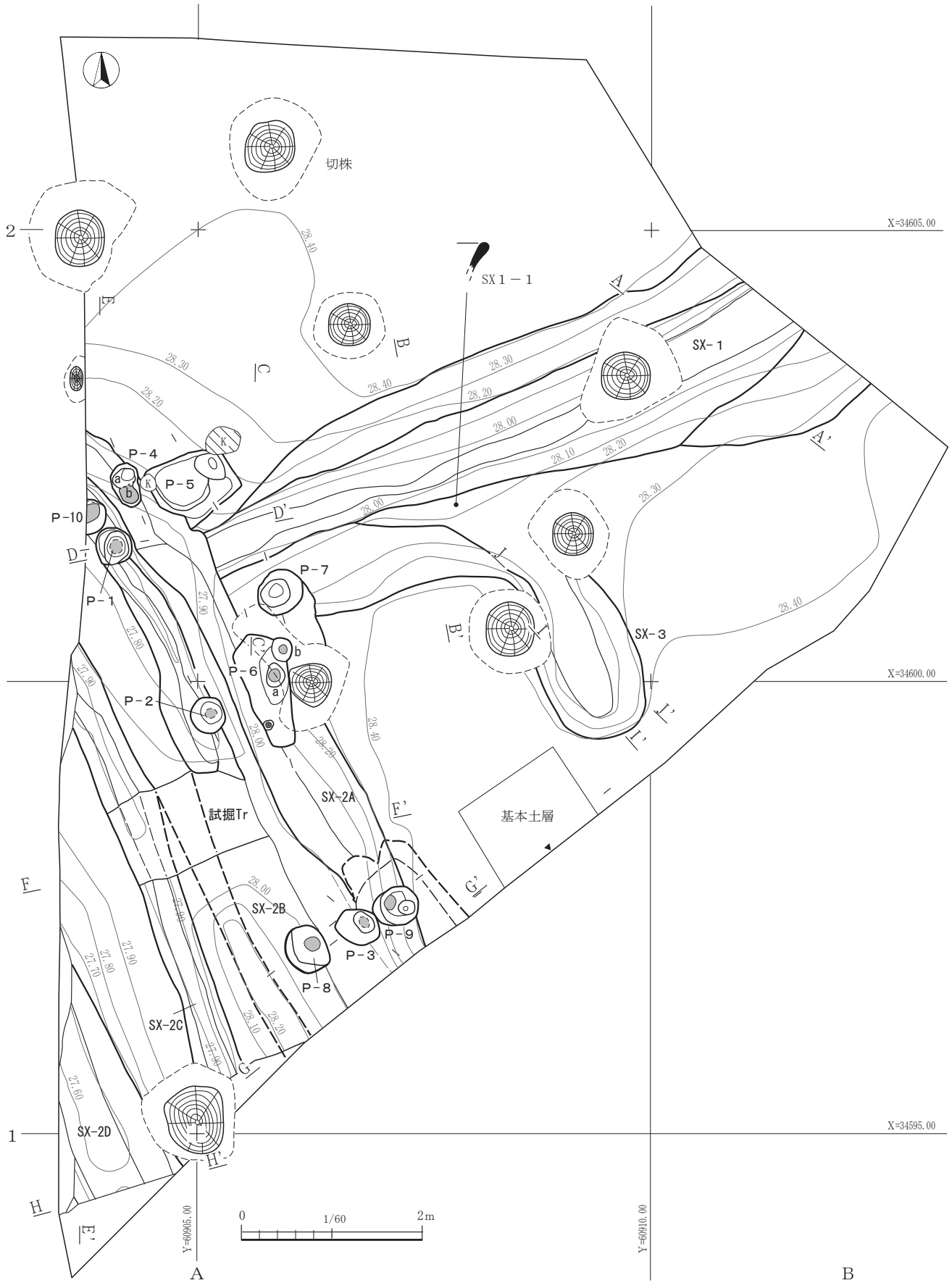
調査内より計14基の小穴を確認し、うち2基は根跡と判断され、P-1～4a・4b・5・6a・6b～10の12基を報告する。前項で記した如く、何らかの構造物の柱穴と考えられるものであるが、建物などを明確にし得ずそれぞれの計測値を表記する。

なお、第9図のA列ではP-1・P-2間210cm(約7尺), P-2・P-3間275cm(約9.2尺), 同B列ではP-10・P-2間265cm(約8.8尺), P-2・P-8間280cm(約9.3尺)と不揃いではあるが柱間が広いのが特徴であろう。

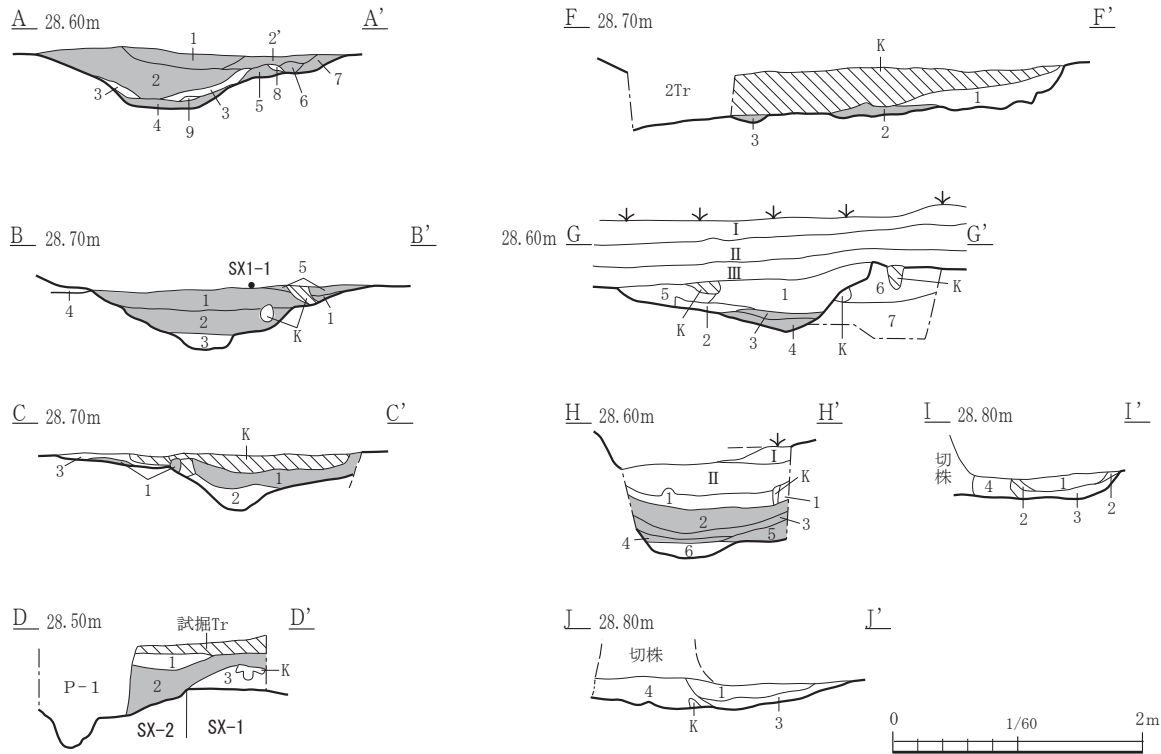
第3表 小穴計測表

[] 現存値, 単位 cm

No.	地区	長径×短径×深さ	平面形	備考	No.	地区	長径×短径×深さ	平面形	備考
1	2A	43×42×26	円形	柱当り	6a	1・2A	26×22×40	楕円形	130×55cmの楕円形掘り込み内, 柱当り
2	1A	40×37×47	円形	柱当り	6b	2A	29×22×46	楕円形	130×55cmの楕円形掘り込み内, 柱当り
3	1A	50×39×68	楕円形	柱当り	7	2A	34×27×18	円形	
4a	2A	[25]×32×18	円形		8	1A	55×45×58	楕円形	柱当り
4b	2A	[22]×24×16	円形	柱当り	9	1A	43×42×[32]	円形	柱当り, 上部削平
5	2A	[77]×56×32	不整形	大型の掘り込み内に複数?	10	2A	38×[21]×43	円形	柱当り



第6図 遺構平面図



SX-1 A-A'

1. 灰黄褐色土 (10YR5/2) にぶい黄橙色土 (10YR6/4)R(1 ~ 10 mm)20%含む, 締まり強い
2. 灰黄褐色土 (10YR4/2) にぶい黄橙色土 (10YR6/4)R・B(1 ~ 25 mm)15%, 褐灰色土 (10YR4/1)R・B(1 ~ 30 mm)15%含む, 締まり強い
- 2'. 2に類似するが, やや明るい
3. 灰黄褐色土 (10YR5/2) にぶい黄橙色土 (10YR6/4)R・B(1 ~ 20 mm)30%含む, 締まりあり
4. 灰黄褐色土 (10YR4/2) にぶい黄橙色土 (10YR6/4)R(1 ~ 10 mm)10%含む, 締まり強い
5. 灰黄褐色土 (10YR5/2) にぶい黄橙色土 (10YR6/4)R(1 ~ 10 mm)15%含む, 締まり強い
6. にぶい黄橙色土 (10YR6/3) 灰黄褐色土 (10YR5/2)R(1 ~ 5 mm)5%含む, 締まり強い
7. 灰黄褐色土 (10YR4/2) にぶい黄褐色土 (10YR6/3)R(1 ~ 10 mm)10%含む, 締まり強い
8. にぶい黄橙色土 (10YR6/3) 明黄褐色土 (10YR7/6)R(1 ~ 5 mm)10%含む, 締まり弱い
9. にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 締まりあり

SX-1 B-B'

1. 灰黄褐色土 (10YR5/2) にぶい黄橙色土 (10YR6/4)R・B(1 ~ 30 mm)25%含む, 締まり強い
2. 灰黄褐色土 (10YR4/2) にぶい黄橙色土 (10YR6/4)R・B(1 ~ 25 mm)15%含む, 締まり強い
3. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 明黄褐色土 (10YR6/8)R(1 ~ 10 mm)10%含む, 締まりあり
4. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まりあり (自然層?)
5. 黒褐色土 (10YR3/2) にぶい黄橙色土 (10YR6/4)R・B(1 ~ 20 mm)15%含む, 締まり強い

SX-1 C-C'

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 灰黄褐色土 (10YR4/2)R・B(1 ~ 30 mm)20%, LR(1 ~ 5 mm)5%含む, 締まり強い
2. 褐色土 (10YR4/4) 灰黄褐色土 (10YR4/2)R・B(1 ~ 20 mm)15%含む, 締まりあり
3. 灰黄褐色土 (10YR4/2) にぶい黄橙色土 (10YR6/4)R(1 ~ 10 mm)10%含む, 締まりあり

SX-1・2 D-D'

1. にぶい黄褐色土 (10YR5/3) にぶい黄橙色土 (10YR6/4)R・B(1 ~ 20 mm)20%, 明黄褐色土 (10YR6/6)R(1 ~ 10 mm)5%含む, 締まりあり
2. 灰黄褐色土 (10YR4/2) にぶい黄褐色土 (10YR5/3)R・B(1 ~ 25 mm)25%含む, 締まり強い
3. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 明黄褐色土 (10YR6/6)R(1 ~ 10 mm)15%含む, 締まりあり

SX-2 F-F'

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 黄褐色土 (10YR5/6)R・B(1 ~ 30 mm)20%含む, 締まりあり
2. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色土 (10YR5/6)R・B(1 ~ 30 mm)30%含む, 締まり強い
3. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色土 (10YR5/6)R・B(1 ~ 20 mm)20%含む, 締まり強い

SX-2 G-G'

- I. 表土 (腐植土)
- II. 整地土 (旧)
- III. 旧表土
1. 黒褐色土 (10YR3/2) にぶい黄褐色土 (10YR5/4)R・B(1 ~ 30 mm)10%含む, 締まりあり
2. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 灰黄褐色土 (10YR4/2)R(1 ~ 10 mm)20%含む, 締まりあり
3. 明黄褐色土 (10YR6/6) LR(1 ~ 10 mm)主体, 灰黄褐色土 (10YR4/2)30%含む, 締まり強い
4. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 明黄褐色土 (10YR6/6)R・B(1 ~ 15 mm)20%含む, 締まり強い
5. 黄褐色土 (10YR5/6) 締まり弱い, 攪乱?
6. 明黄褐色土 (10YR6/8) 黒褐色土 (10YR3/2)R・B(1 ~ 50 mm)15%含む, 締まり弱い (自然層?)
7. 明黄褐色土 (10YR7/6) 明黄褐色土 (10YR6/6)40%含む, 締まりあり (自然層?)

SX-2 H-H'

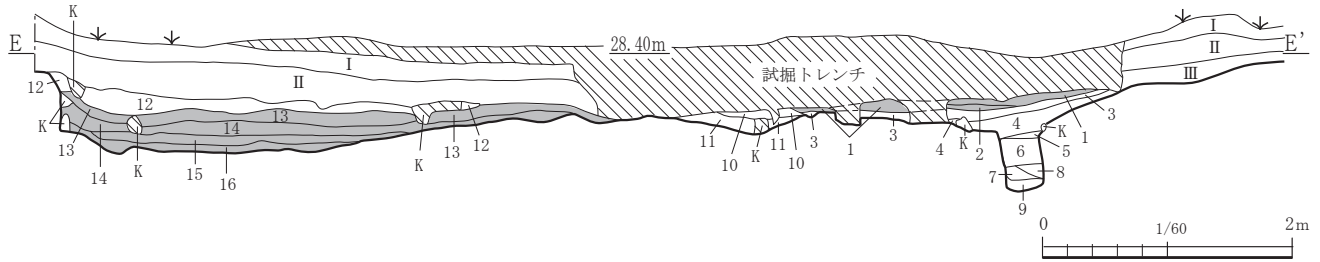
- I. 表土 (腐植土)
- II. 整地土 (旧)
1. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 灰黄褐色土 (10YR6/2)R・B(1 ~ 25 mm)20%, LR(1 ~ 3 mm)3%含む, 締まりあり
2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 灰黄褐色土 (10YR6/2)R・B(1 ~ 30 mm)25%含む, 締まり強い
3. 灰黄褐色土 (10YR5/2) LR(1 ~ 10 mm)20%含む, 締まり強い
4. 灰黄褐色土 (10YR5/2) LR・B(1 ~ 25 mm)25%含む, 締まり強い
5. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) にぶい黄橙色土 (10YR6/4)R・B(1 ~ 20 mm)25%含む, 締まり強い
6. 灰黄褐色土 (10YR4/2) LR・B(1 ~ 20 mm)20%含む, 締まりあり

SX-3 (I-I', J-J' 共通)

1. にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黒褐色土 (10YR3/1)R・B(1 ~ 40 mm)20%, LR(1 ~ 20 mm)8%含む, 締まりあり
2. 明黄褐色土 (10YR7/6) ローム主体, 締まり弱い
3. 灰黄褐色土 (10YR4/2) LR・B(1 ~ 30 mm)15%含む, 締まりあり
4. にぶい黄褐色土 (10YR5/3) LR・B(1 ~ 20 mm)10%含む, 締まりあり

第7図 SX-1 ~ 3土層断面図 (1)

第3章 検出された遺構と遺物



SX-2 E-E'

- 0. 整地土 (新)
- 1. 表土 (腐植土)
- II. 整地土 (旧)
- III. 旧表土
 - 1. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黒褐色土 (10YR3/2)R(1 ~ 10 mm)20%, LR(1 ~ 5 mm)10%含む, 縮まり強い
 - 2. 黒褐色土 (10YR3/2) LR(1 ~ 3 mm)5%含む, 縮まり強い
 - 3. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黒褐色土 (10YR3/2)R(1 ~ 10 mm)10%, LR(1 ~ 5 mm)15%含む, 縮まりあり
 - 4. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黒褐色土 (10YR3/2)R(1 ~ 10 mm)5%, LR(1 ~ 10 mm)25%含む, 縮まりあり
 - 5. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) LR(1 ~ 10 mm)30%含む, 縮まり弱い
 - 6. 褐灰色土 (10YR4/1) 黒褐色土 (10YR3/2)R・B(1 ~ 20 mm)25%, LR(1 ~ 10 mm)15%含む, 縮まり弱い
 - 7. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) LR(1 ~ 10 mm)30%含む, 縮まり弱い
 - 8. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) LR(1 ~ 10 mm)5%含む, 縮まり弱い
 - 9. 灰黄褐色土 (10YR4/2) LR(1 ~ 10 mm)15%含む, 縮まり弱い
 - 10. 黒褐色土 (10YR3/2) LR・B(1 ~ 20 mm)20%含む, 縮まりあり
 - 11. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 灰黄褐色土 (10YR4/2)R・B(1 ~ 30 mm)30%含む
 - 12. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) LR(1 ~ 10 mm)25%含む, 縮まりあり
 - 13. 灰黄褐色土 (10YR4/2) 褐灰色土 (10YR4/1)R(1 ~ 10 mm)20%, LR(1 ~ 10 mm)20%含む, 縮まり強い
 - 14. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) LR(1 ~ 10 mm)20%含む, 縮まり強い
 - 15. にぶい黄褐色土 (10YR5/3) LR(1 ~ 10 mm)25%含む, 縮まり非常に強い
 - 16. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) LR・B(1 ~ 20 mm)30%含む, 縮まり非常に強い

第8図 SX-2土層断面図(2)

P-1

- 1. 黒褐色土 (10YR3/2) LR・B(1 ~ 20 mm)15%含む, 縮まり弱い
- 2. 灰黄褐色土 (10YR4/2) LR・B(1 ~ 20 mm)25%含む, 縮まりあり

P-2

- 1. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) LR(1 ~ 10 mm)20%含む, 縮まり弱い
- 2. 灰黄褐色土 (10YR5/2) LR(1 ~ 10 mm)5%含む
- 3. 褐色土 (10YR4/4) LR(1 ~ 10 mm)10%含む, 縮まり強い
- 4. 黒褐色土 (10YR3/2) LR(1 ~ 10 mm)5%含む, 縮まり強い

P-3

- 1. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) LR(1 ~ 10 mm)15%含む, 縮まり弱い
- 2. にぶい黄褐色土 (10YR5/3) LR・B(1 ~ 20 mm)20%含む, 縮まりあり
- 3. 黒褐色土 (10YR3/2) LR(1 ~ 5 mm)5%含む, 縮まりあり
- 4. にぶい黄褐色土 (10YR6/4) LR(1 ~ 10 mm)30%含む, 縮まりあり

P-4a・4b

- 1. 灰黄褐色土 (10YR4/2) LR(1 ~ 10 mm)15%, 黒褐色土 (10YR3/2)R・B(1 ~ 20 mm)15%含む, 縮まり弱い
- 2. 明黄褐色土 (10YR7/6) 黒褐色土 (10YR3/2)R(1 ~ 10 mm)10%含む, 縮まりあり

P-5

- 1. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) LR・B(1 ~ 40 mm)15%, 黒褐色土 (10YR3/2)R(1 ~ 10 mm)3%含む, 縮まり弱い
- 2. 褐灰色土 (10YR5/1) LR(1 ~ 10 mm)10%含む, 縮まりあり
- 3. にぶい黄褐色土 (10YR5/3) LR(1 ~ 10 mm)5%含む, 縮まりあり

P-6a・6b

- 1. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) LR(1 ~ 10 mm)15%含む, 縮まり弱い
- 2. 灰黄褐色土 (10YR4/2) LR(1 ~ 5 mm)10%含む, 縮まり弱い
- 3. 褐灰色土 (10YR4/1) LR・B(1 ~ 20 mm)15%含む, 縮まりあり
- 4. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) LR(1 ~ 5 mm)10%含む, 縮まりあり
- 5. 黄褐色土 (10YR5/6) LR(1 ~ 10 mm)25%含む, 縮まり弱い
- 6. 灰黄褐色土 (10YR4/2) LR(1 ~ 5 mm)15%含む, 縮まりあり
- 7. 褐灰色土 (10YR4/1) LR(1 ~ 10 mm)10%含む, 縮まりあり

P-7

- 1. 灰黄褐色土 (10YR4/2) LR・B(1 ~ 30 mm)20%含む, 縮まりあり
- 2. 黒褐色土 (10YR3/2) LR(1 ~ 5 mm)10%含む, 縮まり弱い
- 2'. 2に類似するが, LR(1 ~ 10 mm)がやや多い
- 3. 明黄褐色土 (10YR6/6) ローム主体, にぶい黄褐色土 (10YR5/4)15%含む, 縮まりあり

P-8

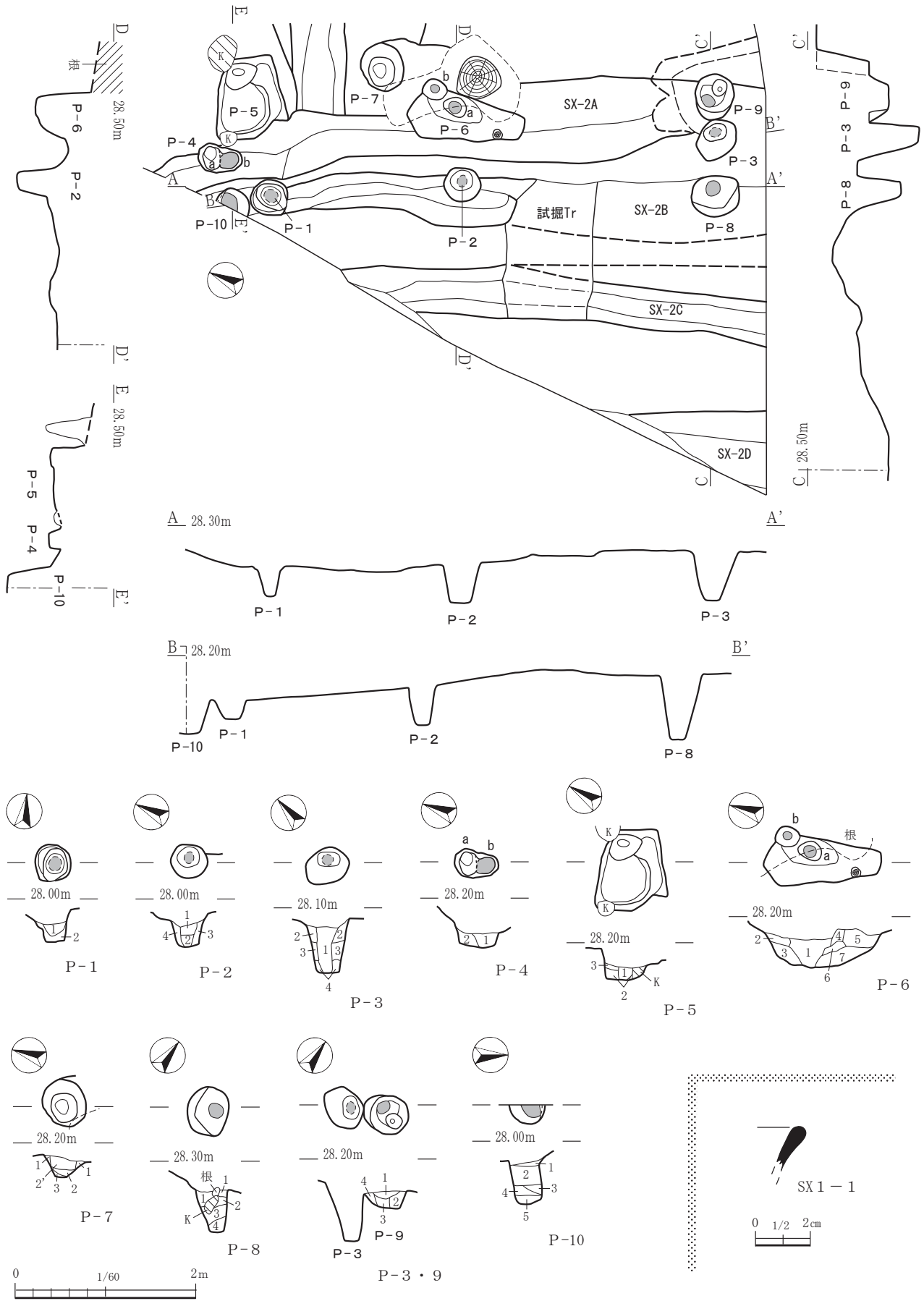
- 1. 灰黄褐色土 (10YR4/2) LR(1 ~ 3 mm)15%含む, 縮まりあり
- 2. 黒褐色土 (10YR3/2) LR(1 ~ 5 mm)10%含む, 縮まりあり
- 3. 黒褐色土 (10YR3/1) LR(1 ~ 10 mm)5%含む, 縮まりあり
- 4. 黒褐色土 (10YR3/1) LR・B(1 ~ 20 mm)15%含む, 縮まりあり

P-9

- 1. 明黄褐色土 (10YR6/8) ローム主体, 黒褐色土 (10YR3/2)R・B(1 ~ 20 mm)15%含む, 縮まり強い
- 2. 明褐色土 (7.5YR5/6) 黒褐色土 (10YR3/2)R(1 ~ 10 mm)10%含む, 縮まりあり
- 3. 灰黄褐色土 (10YR4/2) LR(1 ~ 10 mm)10%含む, 縮まり弱い
- 4. 明黄褐色土 (10YR6/6) ローム主体, 黒褐色土 (10YR3/2)R(1 ~ 10 mm)5%含む, 縮まり強い

P-10

- 1. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) LR(1 ~ 10 mm)30%含む, 縮まり弱い
- 2. 褐灰色土 (10YR4/1) 黒褐色土 (10YR3/2)R・B(1 ~ 20 mm)25%, LR(1 ~ 10 mm)15%含む, 縮まり弱い
- 3. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) LR(1 ~ 10 mm)30%含む, 縮まり弱い
- 4. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) LR(1 ~ 10 mm)5%含む, 縮まり弱い
- 5. 灰黄褐色土 (10YR4/2) LR(1 ~ 20 mm)15%含む, 縮まりあり

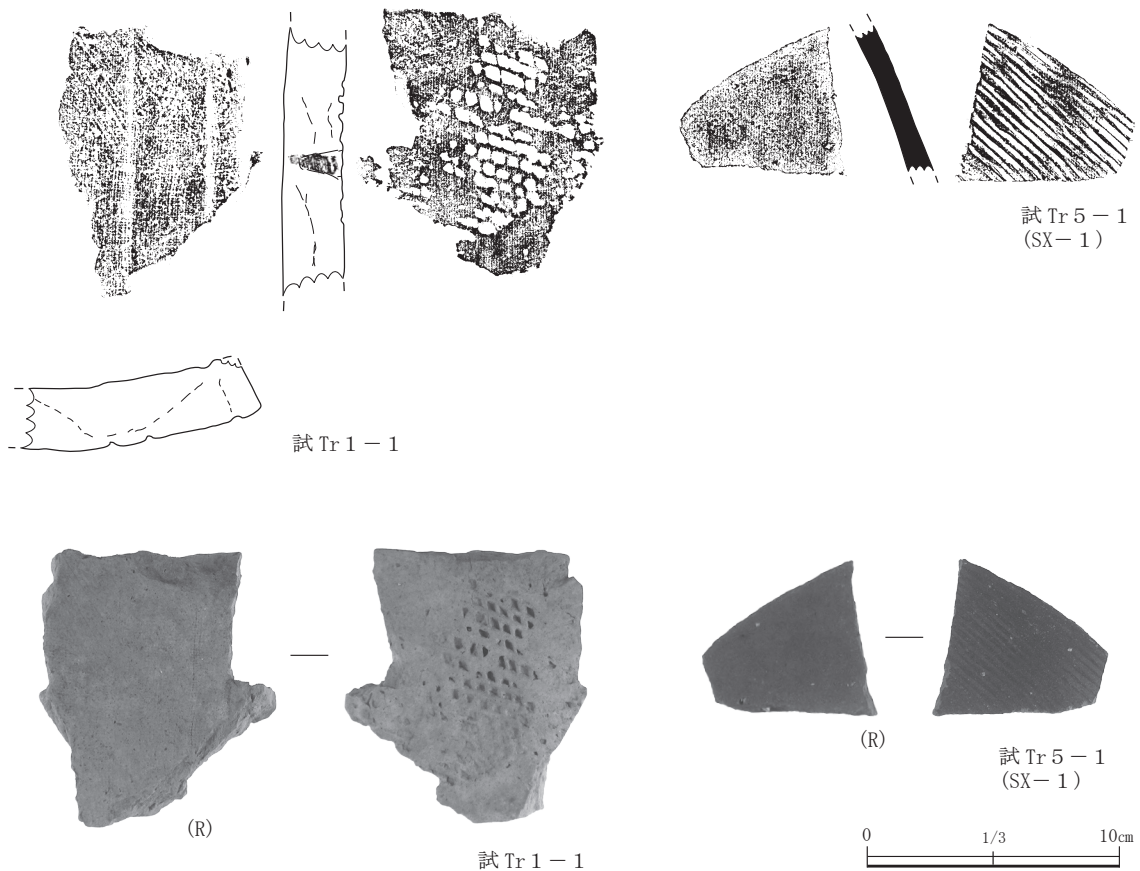


第9圖 小穴群，SX-1出土遺物実測図

(4) 試掘調査出土遺物 (第10図)

1次1Tr-1 女瓦断片，側端面僅かにのこる。凹面糸切痕，布目，小札痕，凸面斜格子（小）叩目文，後ナデ，焼成：普通，色調：内・外にぶい黄橙色（10YR7/4），胎土：石英・長石・白色砂粒，一辺3～4mmの斜格子，緯線に比べ経線が細い。

2次5Tr-1 須恵器甕，体部断片，ロクロ整形，外面平行叩目文，内面無文当具痕をナデ消ス。焼成：良好，色調：内灰色（5Y5/1），外黒色（N1.5/0），胎土：長石，チャート，白色砂粒。 (水野)



第10図 試掘調査出土遺物実測図

第4章 総括

第1節 土地利用の変遷の概略

本遺跡は、前章でも触れた通り古墳時代後期頃の古墳群として周知されてきたが、今次調査区では該期の遺構・遺物とも皆無の状態であり、それ以前の時代の遺構・遺物も確認されなかった。今次調査では、古代の所産と推定される性格不明遺構と若干の小穴類が確認され、遺物は2度の試掘調査分を含めても、女瓦1片、須恵器2片という結果であった。そこで、ここでは古墳時代～古代の土地利用について、近隣の動向を加味し概観する。

古墳時代 本古墳群は、北東・南西長約400m、幅約100mと細長い範囲で捉えられている。現在、方墳1基、円墳5基の計6基が確認され、古墳はそれぞれ3基ずつ想定エリアの両端にまとまって所在する。北東端の群から本調査区まで約100mで、この付近より南西側は空間地となるが、小支谷が嵌入している為と考えられる。本古墳群に関する考古学的情報に乏しく、詳細は知り得ない。なお、調査区の東方約5mのY字路に、明治14(1881)年建立の「馬頭観世音」と、大正7(1918)年建立の道標がある(水戸市教育委員会編 1994 及び本書写真図版3Q)。このうち右側の馬頭尊は下部が土中であって完全には計測出来なかったが、現存幅88cm、同高さ約70cmで、厚みは不明である。用材は小礫を含む砂岩であり、海岸より搬入されたものと判断される。土中にある文字は鮮明であったが、露出部分は劣化が著しい。このような材質の石材を、石碑建立の為に海岸より運搬したとは考え難く、付近に所在した古墳の石室の用材を転用したものと推察される。調査区の東方約600mの台地縁辺部に下入野古墳群があり、現在8基の円墳の存在が知られている。こちらで発掘調査の事例は無いが、『常澄村史』(常澄村史編さん委員会編 1989)に興味深い記載が見られた。225年前の寛政6(1794)年5月10日に下入野地区のいずれかの古墳が暴かれ、「水府志料」、『新編常陸国誌』、「事蹟雑纂」、「古図類纂」などの史料に記載があるという。このうち、吉田尚典が記した「古図類纂」には、古墳・石室及び出土須恵器の図などが掲載され、墳丘、石室の寸法なども記されている。また、石室の用材は「磯崎石」で、大小に関わらず全て「海石ナリ」と記す。旧常澄地区の古墳で「海石」を使用した例は、北西方約500mの森戸古墳群、北方約4.3kmのフジヤマ古墳やその北の栗崎北古墳などが知られる。「磯崎石」とは現ひたちなか市の磯崎海岸の石を指すわけであるが、石材供給地としては最短距離の大洗海岸(直線で約10km)が挙げられる。大洗海岸では現在は砂岩より礫岩の方が多いため、石材供給を危ぶむ見方もあるが、小礫混じりの砂岩と言うのが一つの目安となろうか。僅か1基の石碑から話しを展開させてしまったが、下入野の古墳群の石室には「海石」を使用したものが多いと推察される。

古代 今次調査で確認した遺構については、その用途・性格を明確にし得ず、文字通り性格不明遺構のままとなった。ここで、調査結果を再度整理する。北東・南西に延びるSX-1は上幅約2.0～2.5m、深さ40～46cmの溝状遺構で覆土中程が硬化し、道路的な利用があったと考えられる。北東側は地区外に延び、その延長線上には現市道がある。南西は埋没途中にSX-2Aに切られる。埋没後にも道路的使用が認められ、須恵器坏の細片の出土があった。SX-2としたものは、北西・南東に延びる溝状遺構で、北東・南西の幅

が約4.5mで、底面の観察から複数の溝の集合体のようにも見えるが、土層等による先後関係の確認は出来なかった。こちらにも埋没途中の覆土に硬化が見られ、道路的使用が考えられた。さらに、北東辺側に複数の小穴が認められ、その多くは底面に柱当りと見られるものが遺存し、何らかの建造物の柱穴と判断される。概ね、溝の方向に沿って並ぶと思われるが、並びや間隔が規則制に欠け、建造物の想定には至らなかった。小穴が近接して複数見られることや、複数の溝底状の痕跡から類似の施設が近接して繰り返し構築されたと思われる。SX-3は、SX-1の南東に接して確認された楕円形の土坑状の遺構である。関連する施設とも別個の遺構とも判断し兼ねる。

SX-2が南西に向かってどこまで広がるのか確認の為に、埋め戻しの際に設けた6TrではSX-2Dの南西辺を確認。また、SX-2Aに切られていたSX-1が、さらに南西に延びる可能性も推察されたが、この6Trでこれより南西に延びないことが判明した。

本遺構群の性格は今後の類例の増加をまって再考したい。

第1次試掘調査に際して、調査区の北約4mの1Trより女瓦片が1点出土した。凸面は斜格子(小)叩目文、凹面に小札(模骨)痕があり、桶巻作りのものである。予期せぬ遺物の出土であり、その後の展開が期待されたが残念ながら結果はこの資料のみに止まった。

下入野地区においては、かつて詳細な出土位置が不明であるものの、文様面の完存する鏡(軒丸)瓦が1点採集されている。黒澤氏の分類によれば、3127型式、素縁八葉花文鏡(軒丸)瓦で、台渡里廃寺跡の3104型式に類似するも、やや先行するようである。この瓦の存在から付近に瓦窯跡が存在する可能性を指摘している(黒澤 1994)。また、本遺跡の南東方約500mの散野遺跡(第1地点)では、平成27～28年に実施された発掘調査によって、古墳時代～平安時代の竪穴建物跡が88軒確認され、このうち20軒の建物跡より瓦片が40点程出土した。また、いずれも1～2片の出土であったが、SI-15では10片とまとまりを見せる。瓦が出土した竪穴建物跡の時期は8世紀第2四半期～10世紀第1四半期と幅があり、時期的な片寄りも見られなかった(水戸市教育委員会編 2016)。集落内より瓦が出土する場合、生産遺跡からのものか、消費遺跡からのものか興味深いところである。現在、散野遺跡の近隣に生産遺跡は確認されておらず、最寄りの消費遺跡である大串遺跡(第7地点)までは直線で約3.6km。本遺跡から大串遺跡までも約3.6kmである。

かつては、大串遺跡周辺の遺跡より頻繁に瓦が出土することから、付近に瓦窯跡の存在が推測されたこともあったが(黒澤 1994)、大串遺跡(第7地点)の発掘調査(水戸市教育委員会編 2008)によって消費遺跡であることが判明した。しかし、下入野地区の瓦出土については判然としない。

瓦が出土する遺跡で、生産遺跡か消費遺跡かを推定する際に男瓦と女瓦の出土点数を比較する方法がある。男瓦に比べて焼成時の破損率が高い為か、生産遺跡では女瓦が男瓦の数倍から十数倍の破片が出土する。前記の散野遺跡の場合、明らかに二次的に持ち込まれたものであり、出土点数も少なく上記のような比較には適さないかもしれないが、その比率は男瓦1に対し女瓦1.85倍と消費遺跡での比率に近いものであった。これによって下入野地区における瓦生産の可能性を否定するつもりは毛頭無い。散野地区一帯は、かつて広範囲に山砂採取が行われており、既にこれによって削平されてしまったか、あるいは未だ開発の進行していない沢奥に埋没しているか、その可能性は消失していない。

なお、前述の通り、本調査区では試掘調査分を含めても女瓦1片、須恵器2片と比較の対象にもならない。しかし、遺物が極めて少ないということは日常生活の場から離れている可能性が高く、遺物の少なさが遺跡の性格を暗示しているように思われる。また、少ない遺物の中に瓦片が含まれており、同種の叩目文をもつ瓦が大串遺跡及びその周辺遺跡から現在までのところ出土が確認されていない点も本遺跡の性格を考える上でのヒントの一つとなろうか。大串遺跡や台渡里廃寺跡へ瓦を供給していた、ひたちなか市原の寺瓦窯跡群・奥山瓦窯跡群の製品にも現在までのところ類例が認められない。台渡里廃寺跡の初期段階の瓦と推定され、その生産地が注目される。(水野)

【引用・参考文献】

- 秋元吉郎校注 1958 「常陸国風土記」『風土記』 岩波書店
- 伊東重敏 1975 『水戸市田谷廃寺跡出土古瓦雑考』 常陸考古学研究所
- 井上義安 1994 『大串遺跡』 水戸市教育委員会
- 井上義安・千葉隆司 1995 『水戸市北屋敷古墳』 水戸市
- 樫村宜行 1995 『一般国道6号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 梶内遺跡』 建設省・財茨城県教育財団
- 梶山雅彦 1993 『一般国道6号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 中ノ割遺跡・小山遺跡・諏訪前遺跡・高原古墳群・沢幡遺跡・高原遺跡・北屋敷遺跡』 財茨城県教育財団
- 勝田市教育委員会編 1980 『原の寺瓦窯跡発掘調査報告書』 茨城県勝田市教育委員会
- 勝田市教育委員会編 1981 『原の寺瓦窯跡発掘調査報告書』 茨城県勝田市教育委員会
- 嶋志田篤二 1989 「奥山瓦窯跡」『勝田市内遺跡発掘調査報告書』 勝田市教育委員会
- 川口武彦 2010 「大串遺跡の正倉の屋根景観を考える」『婆良岐考古』 32号 婆良岐考古同人会
- 岸本直文 1992 「茨城県水戸市出土の三角縁神獣鏡」『考古学雑誌』 78-1 日本考古学会
- 黒澤彰哉 1994 『学術調査報告書Ⅳ 茨城県における古代瓦の研究』 茨城県歴史館
- 黒澤彰哉 1998 「常陸国那賀郡における寺院と官衙について」『茨城県歴史館報』 第25号
- 郡司良一 1973 「常澄村森戸発見の底部穿孔土器」『茨城考古学』 5 茨城考古学会
- 常澄村史編さん委員会編 1989 『常澄村史』 常澄村
- 東京国立博物館 1980 『東京国立博物館図版目録(古墳・関東篇1)』
- 中山信名 1979 『新編常陸国誌』 宮崎報恩会
- 常陸古代窯業史研究会 1998 「水戸市山田窯跡群確認調査報告」『茨城県考古学協会誌』 第10号 茨城県考古学協会

- 水戸市教育委員会編 1994 『常澄村史 地誌編』 水戸市
- 水戸市教育委員会編 2002 『小仲根遺跡』 水戸市教育委員会
- 水戸市教育委員会編 2004 『台渡里麿寺跡』 水戸市教育委員会
- 水戸市教育委員会編 2008 『大串遺跡（第7地点）』 水戸市埋蔵文化財調査報告第14集
- 水戸市教育委員会編 2012 『古代常陸の原象 那珂郡成立と台渡里官衙遺跡群』 台渡里
官衙遺跡群国指定史跡追加指定記念シンポジウム記録集
- 水戸市教育委員会編 2015 『小原遺跡（第3地点）』 水戸市埋蔵文化財調査報告第68集
- 水戸市教育委員会編 2016 『散野遺跡（第1地点）』 水戸市埋蔵文化財調査報告第75集
- 水戸市教育委員会編 2016 『東前原遺跡（第8地点第3次）』 水戸市埋蔵文化財調査報告
第82集
- 水戸市教育委員会編 2016 『小原遺跡（第16地点）』 水戸市埋蔵文化財調査報告第86集
- 水戸市教育委員会編 2017 『東前原遺跡（第10地点）』 水戸市埋蔵文化財調査報告第89集
- 吉川明宏 1991 「常澄村森戸出土の人物埴輪片」『年報』10 財茨城県教育財団

写 真 图 版



A. 遺構確認状況（北西から）



B. 調査区全景（西から）



C. SX-1 完掘（南西から）



D. SX-1 土層 A・A'（北東から）



E. SX-1 土層 B・B'（南西から）



F. SX-1 土層 C・C'（北東から）



G. SX-1・2 交点土層 D・D'（南から）



H. SX-2 完掘（南西から）

写真図版 2



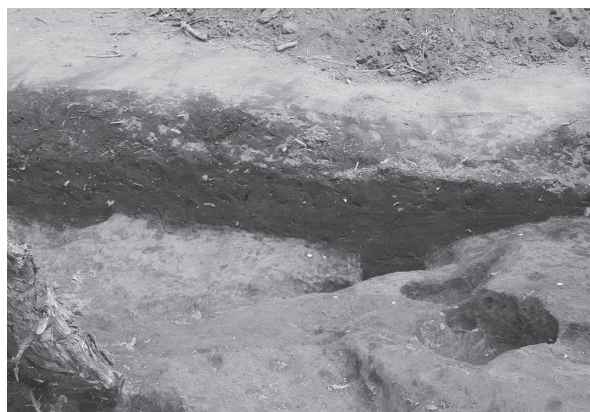
A. SX-2 完掘 (北から)



B. SX-2 完掘 (南から)



C. SX-2 土層 E·E' 南半 (東から)



D. SX-2 土層 E·E' 北半 (東から)



E. SX-2 土層 F·F' 西半 (北から)



F. SX-2 土層 F·F' 東半 (北から)



G. SX-2 土層 G·G' (北西から)



H. SX-2 土層 H·H' (北から)



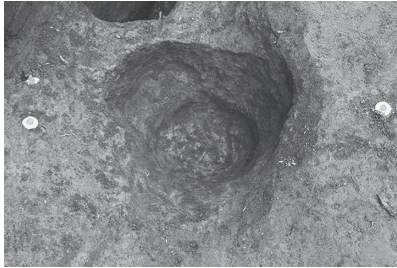
A. SX-3 完掘 (北東から)



B. SX-3 土層 I・I' (南西から)



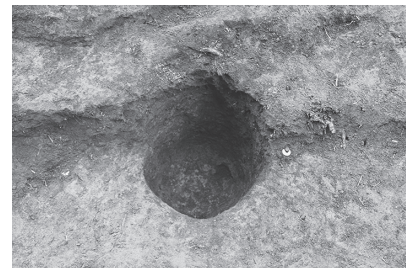
C. SX-3 土層 J・J' (北東から)



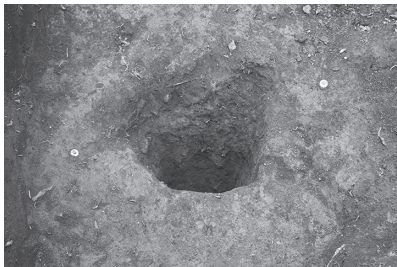
D. P-1 完掘 (南から)



E. P-1 土層 (南から)



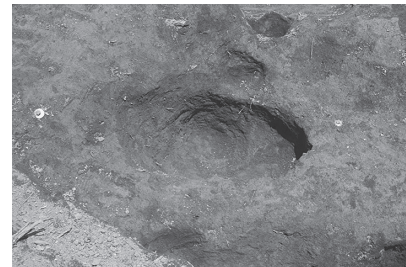
F. P-2 完掘 (西から)



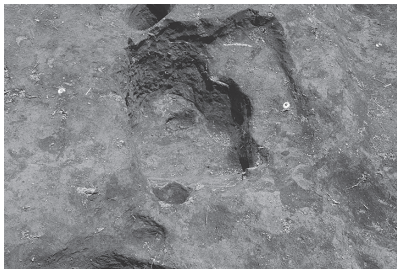
G. P-3 完掘 (北東から)



H. P-3 土層 (東から)



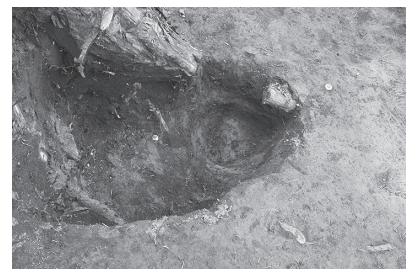
I. P-4 完掘 (西から)



J. P-5 完掘 (南西から)



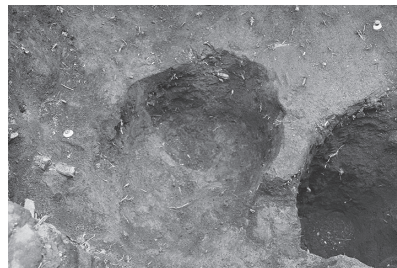
K. P-6 完掘 (西から)



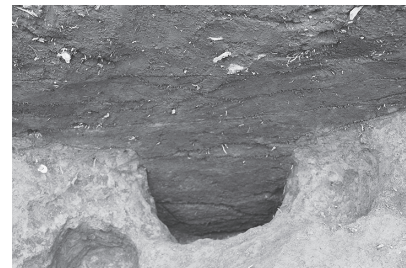
L. P-7 完掘 (北東から)



M. P-8 完掘 (南東から)



N. P-9 完掘 (北西から)



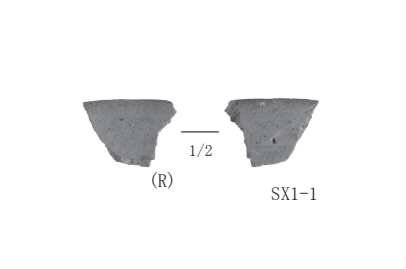
O. P-10 土層 (東から)



P. 基本土層 (北西から)



Q. 調査区脇石碑 (南西から)



R. SX-1 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しもいりのにしこふんぐん (だいさんちてんだいさんじ)							
書名	下入野西古墳群 (第3地点第3次)							
副書名	一障害者支援施設増床工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告第111集							
編集者名	水野順敏・廣松滉一							
著者名	水野順敏・廣松滉一							
編集機関	株式会社日本窯業史研究所	所在地	〒324-0611 栃木県那須郡那珂川町小砂 3112 ☎ 0287-93-0711					
発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1 ☎ 029-224-1111(代)					
発行年月日	2019 (平成31) 年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しもいりのにしこふんぐん 下入野西古墳群 (第3地点第3次)	いばらきけんみとしもいりのちゆう 茨城県水戸市下入野町 1924 ばん番2	08201	198	36° 18' 37"	140° 30' 40"	自 2018/07/09 至 2018/07/21	106.0	障害者支援 施設増床
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
下入野西古墳群 (第3地点第3次)	集落跡	・古墳時代 ・古代	— ・性格不明遺構 ・小穴	— ・須恵器, 瓦		・古墳群として周知されてきたが、今次調査区では古代の性格不明遺構・小穴などが確認された。		
要約	・古代の溝状の性格不明遺構2か所、土坑状の性格不明遺構1基の他、柱穴と考えられる小穴12基を確認した。遺物は試掘調査を含め瓦1点、須恵器2点である。							

水戸市埋蔵文化財調査報告 第111集

下入野西古墳群 (第3地点第3次)

一障害者支援施設増床工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

印刷 平成31年3月31日

発行 平成31年3月31日

編集 株式会社日本窯業史研究所

発行 水戸市教育委員会

印刷 株式会社松井ピ・テ・オ・印刷

〒321-0904 栃木県宇都宮市陽東5-9-21